

6. 研究報告抄録

瀬戸臨海実験所研究報告 (Publications of the Seto Marine Biological Laboratory) 第39巻第1号が、2000年12月25日に発行された。掲載論文5編、総頁数44頁。

39巻第1号 (2000年12月)

論文 1. Nakamura, K. & Chullasorn, S.: *Eurycyde flagella*, a new pycnogonid species from Phuket Island, Thailand. [中村光一郎・ー：タイ・プーケット島産の *Eurycyde* 属ウミグモの一新種]. タイ・プーケット島のサンゴ礁の潮間帯より、ウミグモ類の一新種 *Eurycyde flagella* を記載した。これは *Eurycyde* 属のアンダマン海よりの初記録である。既知の同属全種の検索表も作成した。(1-7頁)

論文 2. Ogawa, K. & Takahashi, K.: Notes on Japanese ahermatypic corals - II New species of *Dendrophyllia*. [小川数也・高橋耿之介：日本産非造礁性サンゴ類覚書 II-*Dendrophyllia* 属の新種]. 日本産非造礁性サンゴ類に関する第2報として、*Dendrophyllia* 属4新種を記載した。今回の新種を加えた20種を含めて、日本産 *Dendrophyllia* 属及びその関連属についての検索表を改訂した。(9-16頁, 図版I-IV)

論文 3. Fukushima, T., Shirayama, Y. & Kuboki, E.: The characteristics of deep-sea epifaunal megabenthos community two years after an artificial rapid deposition event. [福島朋彦・白山義久・窪木英二：急激な人工的堆積から2年後の深海表在性メガベントス群集の特性]. 深海底での鉱物採掘の影響を調べるために行った、急激な人工的堆積実験の一環として、実験から2年後のメガベントス群集の変化を調査した。メガベントス全体の密度は堆積区で有意に減少し、特に代表的堆積物食者であるナマコ類で有意に対照区より少なかったが、カイメン類とクモヒトデ類では対照区と差が出ず、人工的堆積に対して堆積物捕食者が敏感なのに対し、懸濁物食者や雑食性のものには耐性がある事が示唆された。(17-27頁)

論文 4. Shimomura, M. & Mawatari, S. F.: *Santia katoi* sp. nov., a new isopod crustacean from Shirahama, Japan (Asellota: Santiidae). [下村通誉・馬渡俊輔：白浜産の等脚目甲殻類の一新種 *Santia katoi* (ミズムシ亜目：Santiidae 科)]. 和歌山県白浜町の潮下帯より、等脚目甲殻類の一新種 *Santia katoi* を記載した。これは Santiidae 科の日本における初記録であるとともに、*Santia* 属の北半球における3番目の記録である。(29-34頁)

論文 5. Ando, H. & Makioka, T.: Structure of the hermaphroditic gonad in a Japanese cephalocarid crustacean, *Sandersiella* sp. with special reference to the oogenetic mode. [安藤準・牧岡俊樹：日本産カシラエビ目甲殻類 *Sandersiella* sp. の雌雄同体性生殖巣の構造、特に卵形成様式について]. 雌雄同体性のカシラエビ類 *Sandersiella* sp. の生殖巣の構造を組織学的に調べた。卵形成様式は典型的な大顎類のタイプであったが、生殖巣と生殖輸管の連絡様式がこれまでの記載と異なっていた。(35-44頁)

(編集委員会)